学びの場　高齢者に提供

2023/07/02 05:00

この記事をスクラップする

ＮＰＯ法人たかつき市民カレッジ理事長　馬渕晴彦さん　７６

日本人の平均寿命は男女ともに８０歳を超え、１００歳まで生きる長寿者も珍しくありません。「人生１００年時代」が近づく中、高齢者らが学び直す「たかつき市民カレッジ」を２０２０年から運営する馬渕晴彦さん（７６）は「長い『老後』を豊かに生き、地域に貢献できる人材を育てたい」と力を込めます。

主にシニア世代を対象に、仲間づくりや地域貢献のきっかけとして、学びの場を提供しています。健康や生きがいづくり、地域の歴史など多様なテーマを扱う「基礎講座」（年間３８回）に加え、より深く高槻の自然や歴史、文化を学んだり、文化や芸術についての講座を受けられたりする複数の「特別講座」（同２０回）もあります。夏・冬期に専門的な課題を集中的に扱う「集中講座」も開き、年々講座を増やしています。

講師は大学教授や研究者など専門家に依頼しています。受講料は年間１万～３万円のため、謝礼が最小限で、スタッフが頭を下げて回って引き受けてもらっています。運営はボランティア頼みです。

◇

長く会社員として営業の仕事をしていましたが、５０歳代になって「大学時代は遊んでばかりだった。学び直したい」という思いが高まりました。リタイア後は、企業経営について伝えるなど、高槻に貢献する活動をしたいと考え、同志社大大学院に入って経営学や組織論を研究し、６０歳代では関西学院大の専門職大学院でＭＢＡ（経営学修士号）を取得しました。会社に迷惑をかけないよう夜間や休日を利用して勉強しました。在学中に勤務地が東京になり、ふらふらになりながら往復したこともありましたね。

実際に引退して学びを地域に還元したいと考えていた時に、元滋賀県知事の国松善次さんが提唱する「１００歳大学」を知って「これだ！」と膝を打ちました。高齢者が健康や地域での活動について学ぶというもので、自分の苦労した経験もあり、誰もが気軽に学び直し、地元・高槻の発展に貢献できる場をつくろうと、１９年にＮＰＯ法人を設立して開講に動き出しました。

◇

開講初年度の受講生は約５０人でしたが、今年度は約２００人が講座を受講しています。受講生の中には、事故で半身不随になった父親の３０年以上にわたる介護を終えて学び直す女性や、パーキンソン病を患いながらも通ってくれる男性もいて、その熱意に心打たれました。「街のために何かしたい」という意欲の、受け皿になりたいと思っています。

苦労も多いけれど、やりがいと意義があると感じています。高槻市の高齢化率は約３０％。１０万人もの市民が動けば社会は変わります。学ぶ高齢者を増やすことで、さらに誇れる高槻になるはず。「街はシニアがつくるんだ」と元気に頑張る高齢者をどんどん育てていきたいと思っています。（聞き手・滝口憲洋）

◆愛知県碧南市生まれ。府立北野高、関西学院大を卒業後、東洋ガラス（東京）に入社。２００６年から４年間、子会社・東硝（とうしょう）（同）の社長を務めた。たかつき市民カレッジの設立メンバーで、理事長は２１年６月に就任。高槻の名誉市民・高碕（たかさき）達之助氏らを顕彰するＮＰＯ法人「高槻名誉市民を語り継ぐ会」の理事長も担う。